

# 今金町生涯学習情報誌 いまナビ

～学びの“今”をナビゲートする～

平成二十九年  
一月一五日

第7号

発行日：平成 29 年 12 月 15 日

発行：今金町教育委員会

編集：社会教育グループ

〒049-4393

瀬棚郡今金町字今金 48 番地の 1

TEL. 0137-82-3488

FAX. 0137-82-3445

「今金町生涯学習情報誌いまナビ」は毎月の広報紙「広報いまかね」では掲載しきれない教育関係の記事をはじめ、所属団体の活動情報、教育関係委員のコラムを掲載し、町民の皆様には教育関係事業の情報をお知らせするものです。年4回、町内全世帯向けに発行しています。どうぞご覧ください。

## ■ レディース KIMONO プロジェクトが終了しました！

10月15日、着物リメイクファッションショー「レディース KIMONO プロジェクト 2017 今金コレクション」が町民センターで開催されました。広報等でファッションショー自体は取り上げられているので、今回は縁の下の力持ちとして陰で支えてくださった方々を紹介します。

このプロジェクトでは6月の探寸と10月のショー本番の2回、北翔大学の学生が今金町に来町しました。その2回の昼食・夕食の提供を、実行委員会の交流部の皆さんにお願いしました。今金の特産品を使用したカレーやポテトサラダ、チラシ寿司、おにぎり等、早くから集まり美味しい料理を提供してくださいました。北翔大学の学生は料理をとて気に入り、お皿の上はきれいになっていました。

モデルのメイクやヘアメイクを引き受けてくださったのは町内の美容師さん達です。衣装の色や形、モデルの髪の長さや雰囲気などを踏まえ、どのようなメイクがいいのか、どのようなヘアアレンジがいいのかを事前に打ち合わせしました。モデルの希望や意見も取り入れながら、モデルをさらに輝かせるために当日の早朝からお手伝いをしてくださいました。

今回のショーにはナレーションや舞台装飾などで中高生も参加しました。中学生のナレーション指導をくださったのは、フリーアナウンサーの野宮範子のみやのりこさん。本物に触れることができ、中学生は大変喜んでいました。また、モデルのウォーキング指導は北翔大学のファッションショーでもウォーキング指導をされている、端谷真子はしやしんこさんをお願いしました。端谷先生の指導のおかげか、本番のモデルは堂々ときれいに歩かれていました。

沢山の方々に支えられ、今回のファッションショーも成功に終わることが出来ました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！  
(齋藤)



▲今金カレー（交流部）



▲交流部の皆さん



▲ナレーション指導の様子

### 今後の主な行事

1月13日(土) こどもかるた交流会

1月16日(火) えいごキッズくらす

2月4日(日) 町民フロアカーリング大会

2月18日(日) ピリカ歩くスキー大会

### 会場

総合体育館、老人福祉センター

町民センター

総合体育館

美利河

※詳細はチラシ等で随時お知らせいたします

## ■ ニュージーランド中学生派遣事業報告会

ニュージーランド中学生派遣事業報告会が11月17日に今金中学校で行われました。8月にニュージーランドへ行った派遣生たちは、この報告会に向けて9月半ばから全11回の事後研修の中で、それぞれのテーマに沿った資料を作成しました。ホストファミリーへの感謝の手紙を英語で書くことから始まった事後研修。派遣生は手紙を書くことで、ニュージーランドの記憶が蘇ったのではないのでしょうか。その後の研修中も資料に使用する写真を見ながら、ニュージーランドでの思い出話に花を咲かせ、会話からインスピレーションを得てより良い資料を作ることが出来ました。

報告会は今金中学校全校生徒、そして町民へ向けての開催となりました（オープンウィーク）。司会進行や派遣事業の説明もすべて派遣生が行いました。派遣生は緊張した面持ちでしたが、50分間という短い時間の中で時折笑いを誘いつつ、お互いに助け合いながら報告会を終えました。発表の最後には派遣生から「またニュージーランドに行きたい」といった声を多く聞くことができ、今金町のグローバル化がまた少し進んだように感じました。

ニュージーランド派遣時だけでなく、事前研修・事後研修を通して、派遣生たちは大きく成長しました。この派遣事業でそれぞれが感じ、身につけたことをこれからの学校生活、そして将来に活かしてほしいです。

来年度はニュージーランドから高校生が来町します。今金町全体で交流したいと思いますので、異文化交流、国際交流の一環として多くの方々のご協力をお待ちしております。  
(齋藤)



▲事業説明



▲テーマごとに発表



▲終わりのあいさつ

## コラム

### 年の終りに

教育委員会 小野嘉代子 委員



今年も残すところあと僅かとなりました。

皆さんはどんな一年を過ごされたでしょうか。

今年は今金町120年記念事業が沢山行われ、身体を使っての体験、芸術鑑賞、プロの方々から直接技術を学べる場面など、沢山の方々に様々な経験をして頂けたのではないかと思います。

また、北海道で活躍されたプロの方の嬉しいニュースもありました。プロ野球日ハムファイターズの大谷投手がいよいよ米大リーグへ巣立ちます。北海道でプロとして育った選手が、大リーグ選手となるまで成長されたことは、北海道民として誇りですね。

日本ハムファイターズは、2014年より豊かな心をはぐくむ為に、読書促進全道キャンペーン「グラブを本に持ちかえて」を実施しています。栗山監督は「一流の心得は本から学べ」と選手たちに読書を推奨しています。大学で特任教授を務める栗山監督の特別講義の新聞記事を見ました。大学生たちに強く勧めたのは読書で「翔平（大谷投手）の部屋は本であふれている。今までのモノの考え方から幅を広げる。他の分野から（知恵）を持ってこない新しい勝負はできない。人間性、人間力が上がると本当に上手くなる」と・・・この記事をよんで、本から教わることの大きさを改めて感じます。

来年、さらに豊かな一年になるよう年末年始の読書のために、図書室で本を借りてみませんか？

皆さんにとって、実りある本と出会いますように・・・

今年も一年ありがとうございました。

## ■ 秋の体カテスト会・スポーツ研修会が行われました！

今金町スポーツ少年団本部が主催する「秋の体カテスト会・スポーツ研修会」が11月11日（土）に総合体育館アリーナで開催され、子ども165名、少年団指導者19名が参加し、とても賑やかな事業となりました。

体カテスト会は春にも開催していますので、秋の実施までにどれくらい自分の体力が伸びたかを測定する機会でもあります。テストは握力・長座体前屈・上体起こし・反復横跳び・立ち幅跳び・20m往復走（シャトルラン）の6種目を行いました。真剣にテストを受ける姿勢は日頃から集中して練習に取り組んでいる成果だと感じました。

体カテスト会終了後のスポーツ研修会では、日本スケート連盟ショートトラック強化コーチ・情報戦力スタッフとして活躍する小松洋介<sup>こまつようすけ</sup>氏を講師に招き、メンタルトレーニングと運動のパフォーマンスを発揮するストレッチ教室などを行い、日頃から目標設定をして運動に取り組む大切さを子どもと指導者が共に学ぶ貴重な機会となりました。（白岩）



▲20m往復走（シャトルラン）



▲スポーツ研修会

## ■ 「特別の教科 道徳」が始まります

教育委員会 <sup>さ</sup>坂 <sup>た</sup>田 <sup>かず</sup>一 <sup>とし</sup>俊 指導主事



今年度、小学校や中学校の授業参観に行くと、「道徳」の授業を見る機会が多いような気がしませんか。

小学校では平成30年度から、中学校では31年度から「特別の教科 道徳」が始まる予定で、各学校はその準備に入っています。私たちが小・中学校の時に受けてきた（教えてきた）「道徳の時間」とは大きく違います。

それでは、なぜ道徳が教科になったのか、今までの道徳とどこが違うのかを説明したいと思います。

今までの道徳との違いを表すキーワードは「考え、議論する道徳」と「多面的・多角的な思考」です。

例えば、「規則を守る」という内容。体育系の部活動に入っている生徒は、ルール（規則）を守らなければゲーム（社会）が成り立たない。不公平になるなどの自分たちの経験から「規則は必要だ」と落ち着きます。けれども内心は「規則は私たちを縛るもの」「固すぎ」「大人の押しつけだ」と思っています。

そこで、「規則は固すぎる」という考え方と「規則は固くなければならない」という考え方の違いを問い、議論させます。正解はありません。それぞれの考え方を尊重します。そして「規則は変えられる」「規則を私たち自身で作ることができる」まで深く考えさせます。他者と交流し合い、自分なりの価値観を広げ、深めていくことが「特別の教科 道徳」のねらいになります。

ここからは私の願いです。

「不寛容社会」「分断社会」「炎上」。人の失敗を虎視眈々と狙っているマスコミ。教育現場に長くいましたが、クレマーが増えたなあ、と感じていました。日本はいつからこうなったのでしょうか。

「特別の教科 道徳」はマイナーチェンジではなくフルモデルチェンジです。「特別の教科 道徳」を受けた生徒（あるいは見た保護者・地域の方）が「お互いさま」「おあいこ」「おかげさま」と言い合える地域社会。文化・宗教の違いを超え、寛容な国際社会を創りあげてを願っています。

## 社会教育委員だより 〈社教委員のつぶやき〉

社会教育委員によるコラムリレーを掲載しています!

〈今金町社会教育委員会〉

委員長	天沼 寧	委員	業天 誉久
委員	坂本 孝子	委員	渡邊 昌子
委員	松原 真一	委員	辻 浩一
委員	山崎 周一		

### 全国社会教育研究大会北海道大会に参加して

委員長 <sup>あま</sup>天 <sup>ぬま</sup>沼 <sup>やすし</sup>寧 (農業)



9月11日(月)～13日(水)札幌市で行われた全国社会教育研究大会に参加させていただきました。今回は全道の社会教育研究大会と併せての開催で、全国から社会教育委員・関係職員1千人以上の参加者が集まり開催されました。今回は全国大会ということで、道内各管内で役割を分担し、運営をさせていただきました。

檜山管内社会教育委員会ではアトラクション部門を担当。乙部町出身の寺島絵里佳<sup>てらしまえりか</sup>さんの唄、江差追分会札幌地区踊り部会の皆様に踊っていただき「江差追分」を披露させていただきました。

私も尺八奏者として参加させていただき、全国の皆様の前での演奏はとても緊張しましたが、良い経験をさせていただきました。参加者の皆様に江差追分の解説と前唄、本唄、後唄を聞いて頂いたことにより大変喜ばれ檜山のPRになったのではと思っております。

1日目の講演では、北海道赤平市でロケット製作をしている植松電気社長植松努<sup>うえまつとむ</sup>氏の講演。「思うは招く」～夢があればなんでもできる～をテーマに、夢を持つことの大切さや、夢を追いかける事の大切さの話聞き、いつまでも夢を持ち続けることの大切さを認識するきっかけとなりました。

2日目は各テーマ別の分科会で全国の同じ悩みを持つ委員との交流で、新たな道筋が見えたような気がいたします。今後はこの経験をもとに色々な事業に携わって行きたいと思っております。



▲江差追分会札幌地区踊り部会の踊り



▲尺八を披露

### かぼちゃランタン作りをしました



10月21日に、にぎわい商店街(旧大志堂店舗内)で開催された「かぼちゃランタン作り」の講師として、小学生16人、保護者5人を指導しました。参加者の殆どが初めてのランタン作りとあって最初は戸惑っていましたが、かぼちゃにステーキナイフを入れ、目や口をくり抜く辺りから真剣な表情に変わり、とても初めてとは思えないほど上手に作っていました。

完成後には自分で作ったランタンを持ちながら記念撮影!達成感のある良い笑顔でした。出来上がったランタンは各家庭に持ち帰ってもらい、その夜はキャンドルに火を灯したと思います。子供達の笑顔に癒され、疲れも忘れるくらい充実した一日となりました。

委員 <sup>つじ</sup>辻 <sup>こう</sup>浩 <sup>いち</sup>一 (自営業)



◀かぼちゃをくり抜いている様子



▶かぼちゃランタンの完成!